

# 「IoTは近い将来どのような方向に進むか」

- 通信インフラの進化
- AI・エッジコンピューティングの知能化
- 産業分野での実装事例
- 社会インパクトと倫理的課題

講

師

(講演順)

(座長) 東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授

森川博之氏

株式会社ソラコム シニアテクノロジー・エバンジェリスト

松下享平氏

NTTドコモビジネス株式会社 エバンジェリスト

玉井佑治氏

NTTドコモビジネス株式会社 エバンジェリスト

増田知彰氏

株式会社ACCESS IoT開発本部 サービス開発部長

小松田薫氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

## 「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

### 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっていく。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信(機械と機械の通信)と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になるだろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 1005 — 」開催内容  
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「IoTは近い将来どのような方向に進むか」

日時 2026年 5月 14日 (木) 13時00分～16時30分

時間	講演内容	講師
(本フォーラムの趣旨・論点)		
<ul style="list-style-type: none"><li>● 通信インフラの進化</li><li>● AI・エッジコンピューティングの知能化</li><li>● 産業分野での実装事例</li><li>● 社会インパクトと倫理的課題</li></ul>		
<p>2024年時点で世界のセルラーIoT接続数は38億台を超え、2030年には65億台に達すると予測されています。また、IoTデバイスの総数は2030年までに250億～290億台に達する見込みであり、5G・eSIM・衛星通信などの通信技術の進化がこの急速な成長を支えています。IoTは単なる「モノの接続」から「知能化された社会基盤」へと進化しており、その影響は製造業、エネルギー、流通、農業、医療など幅広い産業分野に及んでいます。</p> <p>AI・エッジコンピューティングの進化により、IoTデバイスは単なるデータ収集装置から自律的に判断・行動する知能化されたシステムへと変わりつつあります。これにより、リアルタイムでのデータ処理、予測分析、自動制御が可能になり、産業効率の向上と新たなビジネスモデルの創出が加速しています。</p> <p>製造業ではスマートファクトリーの実現に向けた取り組みが進み、生産現場の見える化、稼働率向上、リードタイム短縮などの成果が報告されています。エネルギー分野では脱炭素化と電力網のデジタル化が急務であり、IoTを活用したスマートグリッドの構築が進められています。流通・農業・医療などの分野でも、IoTの活用による業務効率化と新たな価値創出が期待されています。</p> <p>一方で、IoT導入には「スモールスタート」「現状把握」「社内合意形成」「人材育成」「ネットワークづくり」といった課題があり、特に中堅・中小企業においてはこれらの課題への対応が重要です。</p> <p>IoTの急速な普及に伴い、セキュリティ・プライバシー・倫理的課題が重要性を増しています。量子コンピュータ時代に対応した暗号化技術の標準化、エンドポイントセキュリティの強化、AIセキュリティへの対応など、多層的なセキュリティ対策が必要とされています。また、データの収集・利用に関する倫理的ガイドラインの策定も急務です。</p> <p>本フォーラムでは、これらの課題と機会を包括的に議論し、IoTの未来像を多角的に提示します。通信インフラの進化、AI・エッジコンピューティングの知能化、産業分野での実装事例、社会インパクトと倫理的課題という4つの視点から、IoTが社会や生活にもたらす価値と、その実現に向けた課題を明らかにします。各講師による講演とディスカッションを通じて、IoTの技術的進化、産業応用、社会実装に関する最新の知見を共有し、参加者相互のネットワーク形成と協業の機会を創出します。</p> <p>本フォーラムが、IoTの可能性と課題を理解し、今後のビジネス推進や政策立案、研究開発の方向性を検討するための有意義な場となることを期待しています。</p>		
<p>(座長) 東京大学 大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授 森川博之</p>		

13:00 ～ 13:10	「ご挨拶」	質疑 応答	森川博之氏 東京大学 大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授
13:10 ～ 14:10	「真のIoT「リアルワールドAIプラットフォーム」」  ● IoTで集めたデータに基づく判断と実行までをAIで ● 対応キャリアのプロファイルを遠隔で配信・有効化 ● AECCの次世代コネクテッドカー実証	質疑 応答	松下享平氏 株式会社ソラコム シニア テクノロジ ー・エバンジェリ スト
(休憩) (14:10～14:20)			
14:20 ～ 15:20	「モノとしごとを変えるIoT」  ● つながる製品や業務のDX化の支援事例 ● セキュリティ、AIとの組み合わせといった観点での新たな活用方法 ● IoTの次世代技術の展望	質疑 応答	玉井佑治氏 増田知彰氏 NTTドコモビジネス 株式会社 エバンジェリスト
(休憩) (15:20～15:30)			
15:30 ～ 16:30	「「AI Home」ソリューション ～生活・防災・エネルギーを統合する 次世代の住まい～」  ● 「ライフアシスタント」から「ライフマネジメント」へ ● 省エネAI ● 共通データ連携基盤の構築	質疑 応答	小松田 薫 氏 株式会社ACCESS IoT開発本部 サービス開発部長

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に  
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

# 「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長  
齊藤 忠夫 東京大学

名誉教授

稲葉 陽子 ㈱NTTデータグループ

技術革新統括本部

イノベーション技術部長

(運営諮問委員会幹事)

代表幹事

齊藤 忠夫 東京大学

名誉教授

吉村 和幸 KDDI ㈱

取締役執行役員専務

宮川 潤一 ソフトバンク ㈱

代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO

石原 直 東京大学大学院

工学系研究科 特任教授

浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所

代表取締役社長

遠藤 信博 日本電気 ㈱

特別顧問

新野 隆 日本電気 ㈱

取締役 会長

木内 道男 日本電気 ㈱

執行役 Corporate EVP 兼

テレコムサービスビジネスユニット長

副代表幹事

服部 武 上智大学

理工学部 客員教授

森川 博之 東京大学

大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授

成宮 憲一 一般社団法人

科学技術と経済の会

専務理事

幹事

尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU)

電気通信標準化局長

川野 真稔 総務省

国際戦略局 技術政策課長

間宮 淑夫 内閣官房

内閣審議官

渡邊 昇治 経済産業省

商務情報政策局 総務課長

西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所

戦略的イノベーション研究推進事務局 次長

立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所

取締役・特別顧問

(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

伊藤 寿浩 日本放送協会

技術局長

川添 雄彦 NTT ㈱

チーフエグゼクティブフェロー

池田 敬 NTT 東日本 ㈱

代表取締役副社長

桂 一詞 NTT 西日本 ㈱

代表取締役副社長

海老原 孝 NTT ㈱

常務執行役員 技術企画部門長

佐藤 隆明 ㈱NTTドコモ

代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO

伊東 匡 NTT アドバンステクノロジー ㈱

代表取締役社長

高木 康志 富士通 (株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター

石田 貴一 ㈱日立製作所

事業部長

伊藤 明男 ㈱日立国際電気

副社長執行役員

加茂下哲夫 ㈱ソリューションズ & ネットワーク ㈱

代表執行役員社長

(主な設立発起人)

齊藤 忠夫 東京大学

名誉教授

吉川 弘之 東京大学

元 総長

立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所

取締役・特別顧問

(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

杉本 榮一 自由民主党

元 政務調査会 調査役

(最高顧問)

甘利 明 元・経済産業大臣

金子 一義 元・国土交通大臣

林 芳正 元・防衛大臣

## マルチメディア推進フォーラム — PART1005 — 開催

●日時 2026年 5月 14(木) 13時00分～16時30分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。  
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申し込み下さい。  
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥52,150.- (消費税を含む)  
●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190  
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351  
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上  
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 **みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)**  
**三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)**  
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、5月7日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い  
申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は  
代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。  
尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内  
を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

## 「マルチメディア推進フォーラム — PART1005 — 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL ( )	—
		FAX ( )	—
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)	
		-----	
		-----	
支払方法	●銀行振込 ( ) 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書—要・不要